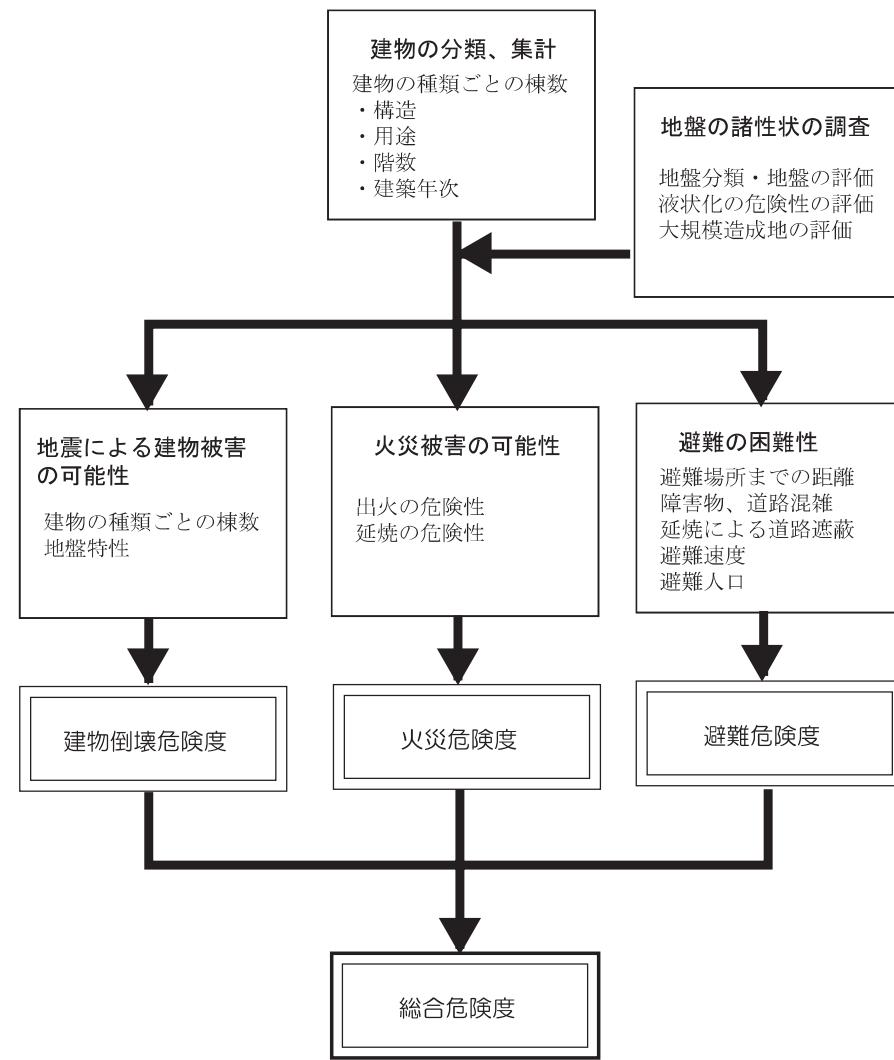


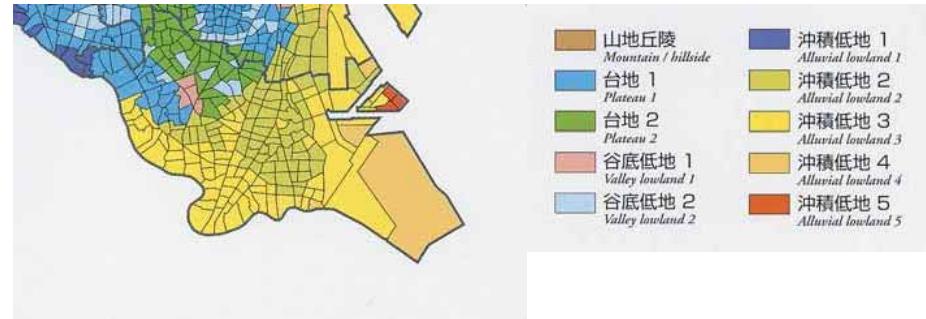
地域危険度（出典：地震に関する地域危険度測定調査報告書 第5回より）

東京都では、東京都震災対策条例に基づき、昭和50年11月から地震に関する地域危険度測定調査を行っており、第5回目の調査結果が発表されています。

調査は、都内都市計画区域の5073の町丁目別に地震に対する危険性を建物、火災、避難の面から相対評価し、地域の地震に対する危険度特性を示しています。



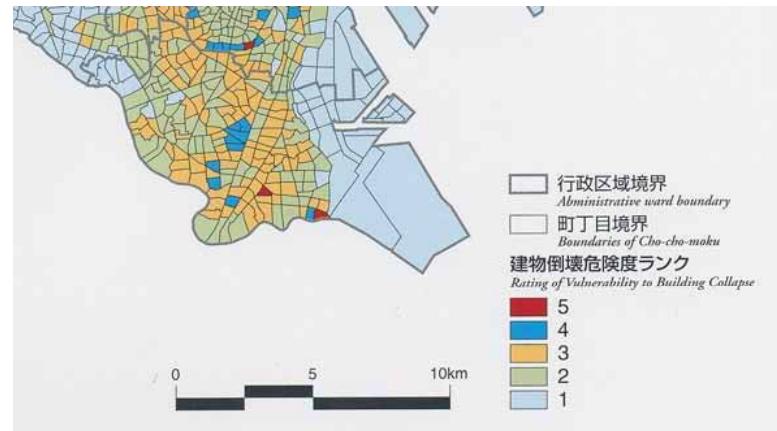
地盤分類



山王3丁目……………沖積低地2：沖積低地の中でも台地によりに分布した軟弱な層がうすい地域であり、関東地震でも建物被害が少なかったことから、沖積低地の中では、相対的に地振動による被害の発生しにくい地域である。ただし、液状化による被害は、沖積低地3や4、5と同等に発生する。

山王1・2・4丁目………台地2：表層に軟弱な層（未固結の粘土層等）が存在する地域であり、台地の中では相対的に被害が発生しやすいと想定される。

建物倒壊度



建物倒壊度は、地盤と地域にある建物の種類によって判定される。

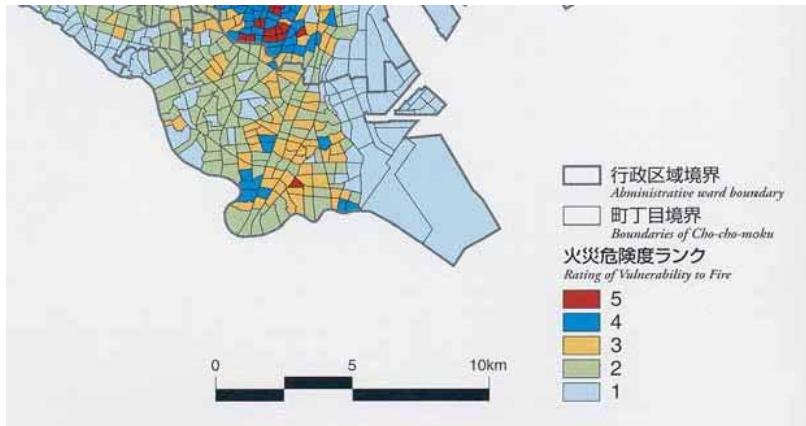
5（危険度高） > 1（危険度低）

山王1・3・4丁目………危険度3

山王2丁目……………危険度2

■建物倒壊危険度算定目安		危険度
指標		高
建物	低	危険度
・棟数 ・構造 ・建築年次	少ない 耐震性高い 新しい	多 耐震性低い 古い
地盤		
・地盤特性 ・液状化	安定 発生しにくい	不安定 発生しやすい

火災危険度

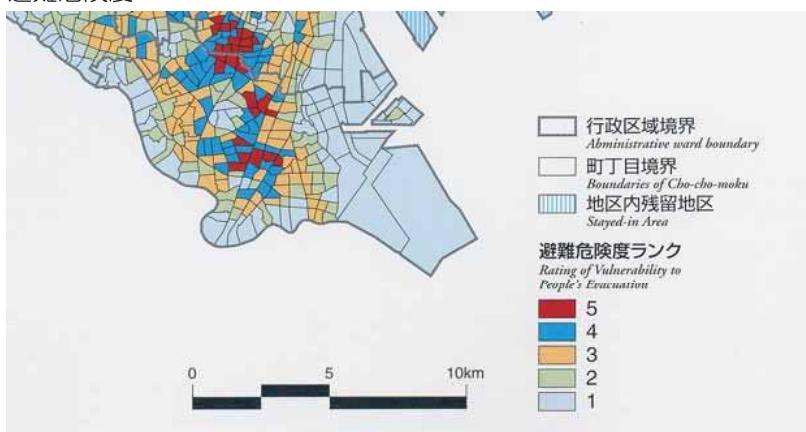


火災危険度は、地震による出火の起こりやすさと延焼の危険性によって判定される。
5（危険度高）>1（危険度低）

■火災危険度算定目安

指標	低	危険度	高
出火 ・火気器具 (集合住宅 火気を扱う 店舗)	少ない	↔	多い
延焼 ・建物密度 ・建物構造 ・道路、 公園面積	低い 耐火性高い 多い	↔	高い 耐火性低い 少ない

避難危険度



避難危険度は、避難場所に到達するまでに要する時間と避難する人の数を組み合わせ判定される。
5（危険度高）>1（危険度低）

山王3丁目……………危険度5

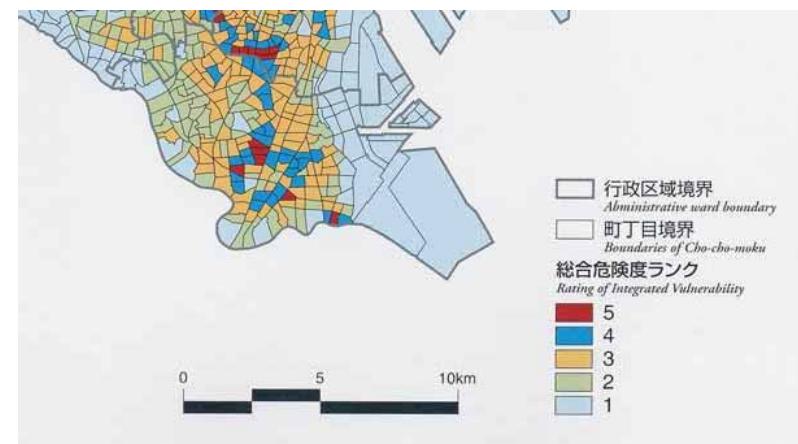
山王4丁目……………危険度4

山王1・2丁目……………危険度3

■避難危険度算定目安

指標	低	危険度	高
避難人口 ・人口密度	低い	↔	高い
避難経路 ・避難距離 ・建物倒壊等 による道路 の閉塞面積 ・延焼火災の 面積	近い 小さい 小さい	遠い 大きい 大きい	

総合危険度



総合危険度は、「建物倒壊危険度」、「火災危険度」、「避難危険度」の3つの危険度の和で判定される。

5（危険度高）>1（危険度低）

山王全域……………危険度3

危険度は、町丁目別に5ランク（5073町丁目）

- ランク5： 1.64% (83町丁目)
- ランク4： 5.55% (282町丁目)
- ランク3： 15.83% (803町丁目)
- ランク2： 31.83% (1615町丁目)
- ランク1： 45.15% (2290町丁目)

に分けて相対評価しています。